

新入荷商品のご紹介



京友禅 夏名古屋帯
夏の変わり縞の生地に洗練されたシャンパンガラスに花をあしらった都会的でモダンな夏の名古屋帯です。
308000円



ミツビシ足袋
本麻足袋
4380円
一度使うとこの時期の足袋に他のものは使えません。見た目にも、また実用的にも涼しい肌触りの本麻の足袋を一度お試しください。



衿秀 畳表 草履
カラスという茶色の畳表草履に千鳥の夏の鼻緒をあわせて上質な夏の足元を演出。
66000円



印伝 眼鏡ケース
7480円(下)
10230円(上)
『勝ち虫』といわれ伝統的な縁起のいい柄として人気の高いトンボの柄を配した印伝の眼鏡ケース。ハードタイプなのでしっかりと眼鏡を守る実用性を兼ね備えています。

SNS で情報発信中！

かわちやの新着商品や産地のこと
ものづくりの話、竹次郎カフェの
開催日など SNS でも発信しています。

フェイスブック
kawachiya888
Instagram
kachuan888



呉服の河内屋
〒444-0521
愛知県西尾市吉良町上横須賀八王子 62
https://www.gofuku-kawachiya.co.jp
メール info@gofuku-kawachiya.co.jp
tel 0563-35-0039 fax 0563-35-3539

趣味の着物、草履・下駄、着物のお手入れ、着付けなどお気軽にご相談ください。

きもの新聞 2021年8月号

ごあいさつ



最近、なぜかどんどん朝起きるのが早くなってしまい、平均4時30分ぐらいに起きてしまうのですが、先日ついに記録更新で3時53分に目が覚めました。東京オリンピック期間といえども深夜や早朝やってないので、これだけ早く起きるとやることがないし、昼間は眠く、『早起きは三文の徳』は、時と場合によるということを感じる今日この頃です。情に棹させば流される。

9月の連休 9月7日(火) 8日(水)

特集 藍染の魅力



藍白(あいじろ)



瓶覗(かめのぞき)



水浅葱(みずあさぎ)



浅葱(あさぎ)



水縹(みずはなだ)



縹(はなだ)



納戸(なんど)



藍(あい)



紺(こん)



熨斗目色(のしめいろ)



紫紺(しこん)



勝色(かちいろ)



止紺(とめこん)

藍の色 いろいろ

日本人の色といえば、『藍色』。ジャパンブルーといわれ、2020年東京オリンピックのロゴマークにも使われていて、江戸時代には約8割が藍染の着物を着ていたと言われています。なぜそこまで藍染は広まったのでしょうか。藍が日本に入ってきたのは奈良時代のころ。そして一気に広まったのは木綿の糸が量産されるようになった江戸時代。このころになると、作業着から高級品までありとあらゆるものが、藍染で染められました。藍染には防菌や虫よけ、蛇除け、皮膚病予防、また防災効果などもあり、火消しにも重宝されました。と藍染の着物はスーパーワーキングウエアとして瞬間に広まっていき日本人の色といえば『藍』といわれるまでになりました。そんな藍染の色も左の図のように、染める回数や藍の状態により様々なグラデーションがあります。カラフルな衣服がない時代に、藍だけでおしゃれを使い分けていたのかもしれないね。藍染ってとっても奥が深いんです。

9月の大創業祭では藍染の着物を特集いたします。